

- 8, メモリー、特殊群番号の待ち受けが、増えています。
 本機では、メモリー1から8、表示群番号、その他特殊群番号の待ち受けが、個々に行なえます。
 また、免許番号での待ち受けや、どの信号でも答える、全群待ち受けもできます。

ノーマルの状態では、メモリーリードか、メモリーのキーを、2秒間ほど押しっぱなしにしていると、待ち受けの設定解除になりますが、SFXでも、同様に設定を行ないます。

ただし、メモリーリード と メモリー のキーは、それぞれ別の待ち受け設定になります。

緊急 交通 高速 近接

例 メモリーリードを押した場合 => 123Ab

- 1 -- メモリー1の待ち受け ON/OFF
- 2 -- メモリー2
- 3 -- メモリー3
- 4 -- 交通コード
- 5 -- 高速
- 6 -- 緊急
- 7 -- 近接
- 8 -- Aコード
- 9 -- Bコード の待ち受け ON/OFF

それぞれの表示がついて、
待ち受け状態となります。

例 メモリーを押した場合 => 45678 又は AとIS 又は ALL

- 4 -- メモリー4の待ち受け ON/OFF
- 5 -- メモリー5
- 6 -- メモリー6
- 7 -- メモリー7
- 8 -- メモリー8の待ち受け ON/OFF
- 9 -- 免許番号の待ち受け => AとIS ON
- 0 -- 全群番号で待ち受け => ALL ON

なお、以上の待ち受けの優先順位は、以下のようになります。

全群番号待ち受け > 免許番号待ち受け > メモリー待ち受け > 特殊群番号待ち受け

全群番号と、免許番号の待ち受けのときには、他のメモリーなどの待ち受けは、無効になります。
 モニターなどから、リセットした時に、上記と同じ表示が出ます。

免許番号の待ち受けでは、待ち受ける相手の番号を、自分の番号に記憶させる必要があります。
 免許番号の取り方、打ち込み方は、免許番号の解説の欄に記しています。

待ち受け群番号で呼び出された場合、後記する、サウンドで呼び出し音を行ないます。
 これにより、どのメモリーの群番号で呼び出されたのかが、群番号を確認しなくてもわかります。

- 9, 群番号解読の時、表示された群番号を、自分のメモリーにコピーすることができます。
コピーしたい群番号が表示されたら、以下の操作を行ないます。

$$\boxed{F} + \boxed{F} \Rightarrow \boxed{COPY} + \boxed{0} \text{ から } \boxed{9} \text{ のキー (0の場合)} \Rightarrow \boxed{COPY0}$$

この例では、メモリー0に、コピーしていますが、以前に記憶されていたメモリーは、消されます。
消してもいいメモリーナンバーを選んで押してください。雑用メモリーをあらかじめ決めておくとうよいでしょう。

- 10, CHの指定が、キー入力により行なえます。

例 50CHにセットする。 $\boxed{5} + \boxed{0} + \boxed{\text{モニタ}} \Rightarrow \boxed{0} \boxed{50}$

例 123CHにセットする。 $\boxed{1} + \boxed{2} + \boxed{3} + \boxed{\text{モニタ}} \Rightarrow \boxed{0} \boxed{123}$

CHが2桁の場合、キー入力も2桁で行なえます。

例 ダウンモードの22CHにセットする $\boxed{1} + \boxed{0} + \boxed{2} + \boxed{2} + \boxed{\text{モニタ}} \Rightarrow \boxed{1} \boxed{22}$

4桁入力の場合は、先頭の桁をモードと判断します。

- 11, チャンネルの、メモリー、呼び出しができます。

PQSF Xは、10個のチャンネルメモリーを持っています。

- メモリーする。

まず、記憶させたいCHに、セットします。

例 100CHにセットする。 $\boxed{1} + \boxed{0} + \boxed{0} + \boxed{\text{モニタ}} \Rightarrow \boxed{0} \boxed{100}$

100CHでモニター状態となります。その後、例として、CHメモリー1に、記憶します。

$\boxed{3}$ 2秒間押し $\Rightarrow \boxed{CHSE}$ + $\boxed{1} \Rightarrow \boxed{SE-1}$ 100CHがCHメモリー1に
セットされました。

- メモリーしているCHに移る。(メモリーを呼び出す。)

先程、CHメモリー1に入れた、100CHを呼び出してみます。

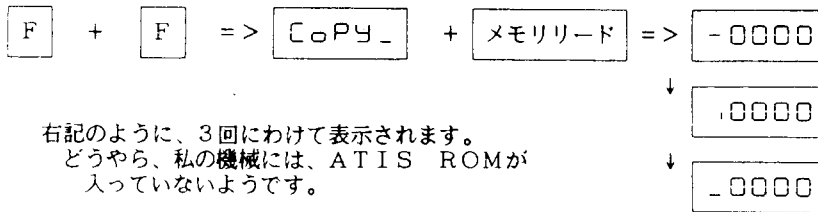
$\boxed{1} + \boxed{\text{モニタ}} \Rightarrow \boxed{0} \boxed{100}$ 100CHでモニター状態となる。

ここで注意する点は、CH指定のときは、2、3、または4桁入力でしたが、1桁入力の場合は、
CHメモリーの指定と解釈します。

メモリーセット、呼び出しとも、0から9までの10個のCHメモリーが使用できます。

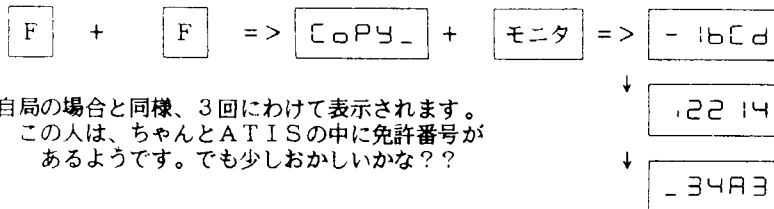
リセット、モニター、レディのいずれの場合からでも、CHの移動が瞬時に行なえます。
また、設定した時のモードも同時に、記憶しています。CHメモリー呼び出し時にも、そのモードに
自動的に移ります。

12. 自局の免許番号の表示 現在使用している自局の免許番号を、表示させます。



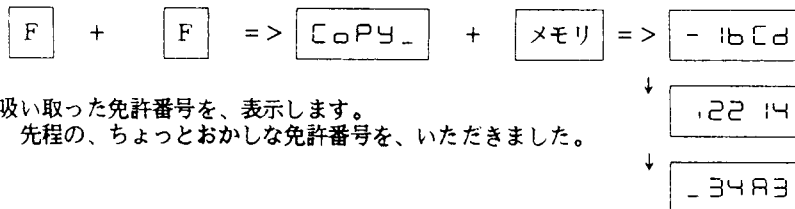
右記のように、3回にわけて表示されます。
 どうやら、私の機械には、ATIS ROMが
 入っていないようです。

13. 相手局の免許番号の表示
 受信した、ATIS信号の中の、免許番号を表示させます。



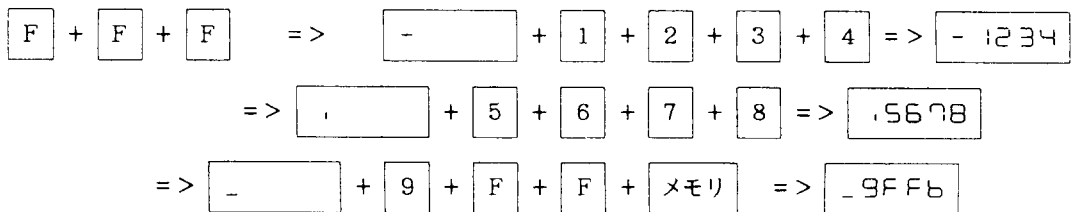
自局の場合と同様、3回にわけて表示されます。
 この人は、ちゃんとATISの中に免許番号が
 あるようです。でも少しおかしいかな??

14. 相手局の免許番号を吸い取る
 受信した、ATIS信号の中の、免許番号を、自局のものにしてしまいます。



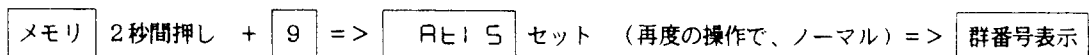
吸い取った免許番号を、表示します。
 先程の、ちょっとおかしい免許番号を、いただきました。

15. 免許番号を作る!!
 自局の免許番号をつくりだしてしまいます。



これで、免許番号は、123456789FFB となりました。
 キー入力の際のアルファベット入力は、群番号の場合と同じです。
 お互いに、SF X同士ですと、電話番号なども、1回のATIS信号で送れます。
 各自、活用方法などを考えてみてください。

16. 免許番号で待ち受ける
 リセット中、自局の免許番号と同じ局にだけ呼び出しを受け付けます。



群番号には関係なく、ATISのなかの、免許番号だけに答えます。
 あらかじめ、相手の免許番号を吸い取っておくか、記録しておいて免許番号を打ち込んでから使用して
 ください。なお、免許番号で待ち受けしている時は、他の待ち受けは無効となります。
 また、全群番待ち受けがセットされている場合は、そちらが優先されます。
 この表示は、モニターや、レディ状態から、リセット状態になった時に表示されます。

!!、なお、くれぐれも、悪用しないでください。!!

○ F の操作方法 その1 F+5～9について

F を押しますと、F056_ のセット、解除、及び確認ができます。

↑
この時、表示の左端の桁は、Fの表示となっています。
この点について注目しておいてください。

また、Fに続いて表示される数字は、現在のモードを表わしています。

17, ATIS信号のカット

PTTを握った時、離れた時、1分に1回送信されるATIS信号を止めてしまう機能です。

F + 5 => F05__ セット F + 5 => F0___ 解除

セットされていても、リコールの時は送信されますので、呼び出しはできます。

18, 群番号の解読

受信したATIS信号の中の、群番号を表示させます。

F + 6 => F0_6_ セット F + 6 => F0___ 解除

19, 送信出力低減

無線機の送信パワーを下げる機能です。遠距離へ妨害を与えている場合などに有効です。

F + 0 . . . 0 => 0-2 . . . 1-0 . . . 5-0

20, 表示ランプON/OFF

前面の表示ランプを、ON/OFFできます。

F + 7 => L I G H T 点燈または消燈

21, 特殊群番 A-CODE のセット

F + 8 => R c o d E この機能は、リセット状態の時のみ、有効です。操作の後、PTTで発信します。この時は、リセットするともとの群番号に戻ります。通話状態からセットした場合は、群番号は変わりません

22, 特殊群番 B-CODE のセット

F + 9 => b c o d E この機能は、リセット状態の時のみ、有効です。操作の後、PTTで発信します。この時は、リセットするともとの群番号に戻ります。通話状態からセットした場合は、群番号は変わりません

○ F の操作方法 その2 F+1~3について

F に続いて、1~3のキーを押しますと、今まで **F** と表示されていた部分が、数字に変わります。

本機は、機能が増えたため、**F** 1~3は、二段設定になっています。
F 1~3まで、それぞれに、1~4のセットを設定しています。

F + **1** => **1** _ _ _ _

↑

F を押しただけでは、**F** の表示だった左の桁に、1~4の数字が表示されます。
 この時、二回目のキーを受け付けます。また、リセットキーで中止できます。

F + **2** => **2** _ _ _ _

F + **3** => **3** _ _ _ _

上記と同様に、1つのキーの中に、
4つの機能がセットされるようになっています。

○ 例

↓ ↓ ↓	F	=>	F0 _ _ _	=	F +5~6は、セット なし
↓ ↓ ↓	1	=>	1 _ _ _ _	=	F +1のなかは、セット なし
↓ ↓ ↓	1	=>	11 _ _ _	=	F +1+1 が、セット された
↓ ↓ ↓	3	=>	11 3 _	=	F +1+3 が、セット された
↓ ↓ ↓	1	=>	1 _ _ 3 _	=	F +1+1 が、解除 された
↓ ↓ ↓	リセット	=>	群番号表示	=	F の作業から抜けた

上記のような操作手順により、**F** 2段セットを行いません。

23. スペシャル機能をすべてOFFとする。

スペシャル機能をまずOFFにしてから使用されるとよいでしょう。

F + **1** => **11234** = **F** 1の中のどれかが表示されている場合、
そのキーを押して表示を消します。

リセット => 群番号表示 = **F** 1の中がすべて消えたところで、
RSTキーで、**F** を抜けます。

F + **2** => **21234** = **F** 2の中の場合も同様に行いません。

以上の操作を、**F** +3についてもおこないますと、取り合えず、
設定解除のできるスペシャル機能については、すべてOFFとなります。

24. マイクのPTTをロック式にする

マイクのPTTをロック式にします。もう、ガチャコンマイクのスプリングを外さないで済みます。

$$\boxed{F} + \boxed{1} + \boxed{1} \Rightarrow \boxed{11_ _ _ _}$$

25. 連続モードの切り替え

モニターサーチの時、1回りしてCHの最初になると、モードを一つ進めます。これにより、すべてのモードがつながったようになり、サーチを行ないます。

$$\boxed{F} + \boxed{1} + \boxed{2} \Rightarrow \boxed{1_2_ _ _}$$

26. メモリースキャン

CHの順番のスクリーンではなく、CHメモリーのスクリーンを行ないます。PQSFXYには10個のCHメモリーがありますが、CHメモリーについては、11.項を参照ください。連続モードがセットされている場合、各モードごとの各CHをサーチしてゆきます。解除の場合は、各CHメモリーが記憶しているモードに、順次切り変わります。

$$\boxed{F} + \boxed{1} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{1_ _ 3_ _}$$

27. 空きCHサーチ

スクリーンを空いているCHで止めるようにします。あくまで、機械の空きCHレベルにより判断しますので、遠くで使用している場合、また、ブレイクタイムの時などで、使用中のCHで止まることもあります。

$$\boxed{F} + \boxed{1} + \boxed{4} \Rightarrow \boxed{1_ _ _ 4}$$

28. 全モード待ち受け

すべてのモードの制御CHを、リセット中に高速にスクリーンしながら待ち受けします。一度に8つのCHを聞いている訳ではないので、着信率は悪化します。全モード待ち受けをしている局を呼び出す時には、連続リコールを使用してください。

$$\boxed{F} + \boxed{2} + \boxed{1} \Rightarrow \boxed{21_ _ _ _}$$

29. プライオリティ

リセット中や、モニター中、他のCHでレディになっている時に、CHメモリー1にセットしたCHを監視する機能です。約15秒に一回の割合で、瞬間的にCHメモリー1を、受信します。このCHで、だれかが送信を行なっていると、5分の表示が点滅します。

$$\boxed{F} + \boxed{2} + \boxed{2} \Rightarrow \boxed{2_2_ _ _}$$

30. 自動リザーブ機能

本機には、群番メモリー、CHメモリー、の他に、リザーブメモリーを持っています。リザーブメモリーとは、群番、CHのメモリーとは独立して、群番とCHをペアでメモリーしておけます。ここでは、自動的にこのメモリーに機械の判断でデーターを記憶させてしまう機能です。以下の（一致群・全群）機能と組み合わせて使用します。

$$\boxed{F} + \boxed{2} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{2_ _ 3_ _}$$

なお、次に示す全群、一致群番号のリザーブ機能は、この機能がセットされて始めて使用できます。

リザーブメモリーは、全部で8個ありますが、9個目を記憶させると、1個目がきえてしまいます。別項目に、リザーブメモリーについての詳細を記していますので、そちらを参照ください。

3.1. 全群番号リザーブ

前記の自動リザーブと組み合わせて使用します。セットすると、リセット中、スペシャルサーチ中に受信した、すべての群番号と、そのCHをリザーブに記憶してゆきます。

また、解除されている場合は、待ち受けセットされている群番号と一致した信号だけを、記憶してゆきます。

$$\boxed{F} + \boxed{2} + \boxed{4} \Rightarrow \boxed{2_ _ 34}$$

F + 2 + 3, 2 + 4をセットしてリセット待機しますと、群番解読で次々と変わってゆく群番号を、後戻りさせて、そのCHに移動することができます。

3.2. PTTによる自動リコール

PTTを離れた時に、自動的にリコールを送信する機能です。

$$\boxed{F} + \boxed{3} + \boxed{1} \Rightarrow \boxed{3! _ _ _}$$

3.3. 多群番一括リコール

メモリしている群番号を、すべてリコールする機能です。

呼び出すCHは、リコールを打ったCHになります。

$$\boxed{F} + \boxed{3} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{3_ _ 3_}$$

3.4. タイマーリコール

通話中(レディ)、自動的に、3分間ごとにリコールを打つ機能です。

$$\boxed{F} + \boxed{3} + \boxed{4} \Rightarrow \boxed{3_ _ _ 4}$$

3.5. 目覚し時計

目覚し時計にします。信和の方式と同じく、減算カウンタになります。

最小設定時間は、10分単位です。

$$\boxed{F} + \boxed{\text{モニタ}} \Rightarrow \boxed{\text{ト} _ _} + \boxed{(\text{時})} + \boxed{(10\text{分})}$$

時間になると、ダンダントーン方式でうるさくなっていきます。

この時、マイクのPTTを握りますと、タイマーが5分延長されます。

残り時間がある状態で、リセットを押しますと、目覚し時計から、無線機に戻ります。

(時間になった場合は、必ずPTTを握ってから、リセットを押してください。)

例 4時間30分後にあわせる。

$$\boxed{F} + \boxed{\text{モニタ}} \Rightarrow \boxed{\text{ト} _ _} + \boxed{4} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{\text{ト}4-29}$$

このように、減算タイマですので、すぐに29分の表示になります。異常ではありません。

4時間30分後=> ビビビ・・・ + PTTを握る=> $\boxed{\text{ト}0-04}$ (5分延長)

5分後=> ビビビ・・・ + PTTを握る=> $\boxed{\text{ト}0-04}$

完全に目が覚めたので、本体のリセットを押して、無線機に戻る。

目覚めの悪い人のために、最後には相当大きな音がします。近所迷惑にならぬよう御注意ください。

36, スペシャルサーチ

モニターサーチをする際に、受信した局と、自分の待ち受けを比較しながら行ないます。信号の入感するCHでは、30秒間ATIS信号を待ちますが、信号が受信できなければ、次のCHにサーチを続けます。信号が受信できたなら、群番号を確認し、待ち受けと違えば、次のCHへ移ります。

1 2秒間以上押し続ける => モニタとSの表示をして、モニターサーチになる。

37, 80CHモード、158CHモードの切り替え

呼び出しや モニターの際のスキャンの幅などを、80CHモードにするか、158CHモードにするかを決めます。

2 2秒間以上押し続ける => 表示の、80CHと158CHが、変わる。

38, CHメモリができます。

メモリさせたいCHで、モニタ、またはレディ状態の時に操作します。

3 2秒間以上押し続ける => CHSEヒ この後、メモリしたいNo. のキーを押します。

例 メモリ2に記憶 2 => SEヒ-2 CHメモリ2に記憶されました。

39, ローカルモード

通話する相手をローカルモードで呼び出します。呼び出された相手は、自動的に受信感度、送信出力低減状態になって呼び出されます。また、モニタ、レディ状態でも操作できますが、この時は、受信感度を低下させる機能になります。遠距離からの混信がある場合などに有効です。

8 2秒間以上押し続ける => 表示の、小ゾーンが、点燈、消燈する。

40, 1分通話モード

通話する相手を、1分通話モードで呼び出します。ただし、自局は、1分たってもリセットしません。リセット状態の場合だけ、効果があります。

9 2秒間以上押し続ける => 表示の、1分が、点燈、消燈する。

41, 特殊群番号の自動設定

交通、高速、緊急、近接の、特殊群番号をセットします。ノーマルにある機能と同じです。リセット状態の場合だけ、有効です。レディ状態では群番号は変化しません。レディ状態から群番号を打ち変えるには、キー入力により行なってください。

4 2秒間以上押し続ける => PCodE (交通) F0000

5 2秒間以上押し続ける => HCodE (高速) F0003

6 2秒間以上押し続ける => ECodE (緊急) FF000

7 2秒間以上押し続ける => LCodE (近接) F0005

4.2. スタンバイ メロディ機能

PQSFXでは、多彩な音楽機能を使用して、スタンバイ時に内蔵のマイコンによりスタンバイメロディを送信することができます。また、自分で作曲することもできます。

Fのキーに続いて、メモリリードのキーを押すことにより、メロディの操作モードになります。

$\boxed{F} + \boxed{\text{メモリリード}} \Rightarrow \boxed{\text{Sound}}$ この表示に続いて、1から4のキーを押します。

A. メロディのモニタ

あらかじめ内蔵されている、10種類の音を聞きます。

$\boxed{F} + \boxed{\text{メモリリード}} \Rightarrow \boxed{\text{Sound}} + \boxed{1} \Rightarrow \boxed{\text{Sd--0}}$

メロディと共に、表示が変わります。

$\boxed{\text{Sd--3}}$

$\boxed{\text{Sd--9}}$

B. メロディの選択

P.T.Tのスタンバイ時に、どのメロディを送信するか決めます。

$\boxed{F} + \boxed{\text{メモリリード}} \Rightarrow \boxed{\text{Sound}} + \boxed{2} \Rightarrow \boxed{\text{SdSEL}} \Rightarrow \boxed{\text{no--0}}$

続いて、自分の選んだナンバーの数字キーを押します。

$\boxed{\text{no--0}} + \boxed{2} \Rightarrow \boxed{\text{no--2}}$ この場合、No. 2のメロディを選びました。

C. メロディを送信するタイミング

スタンバイメロディには、送信開始の時、送信終了の時の場合があります。ここで、どちらにするか、または、両方送信するかを決めます。

$\boxed{F} + \boxed{\text{メモリリード}} \Rightarrow \boxed{\text{Sound}} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{\text{SdPos}} \Rightarrow \boxed{\text{---}}$

続いて、0から3のどれかのキーを押します

$\boxed{\text{---}} + \boxed{1} \Rightarrow \boxed{\text{0---}}$ 送信開始時

$\boxed{2} \Rightarrow \boxed{\text{---0}}$ 送信終了時

$\boxed{3} \Rightarrow \boxed{\text{0---0}}$ 両方とも

$\boxed{0} \Rightarrow \boxed{\text{---}}$ なし

D. 作曲機能

自分でメロディや、効果音を創り出す機能です。

$\boxed{F} + \boxed{\text{メモリリード}} \Rightarrow \boxed{\text{Sound}} + \boxed{4} \Rightarrow \boxed{\text{SdEdt}}$

メモリリード・・・ひとつ進める
8、9・・・カーソル移動

メモリ・・・ひとつ戻す
0から7・・・各データの入れ替え

モニタ・・・編集中の音をテスト
リセット・・・編集終了

なお、編集されたデータは、サウンドメモリー0に入ります。
以降の操作については、各自で研究してみてください。

4.3. 特種オプション群番号

新モードの機種には、新たに、A, B, H, L, P, Eなどを頭文字にした特種群番号がもうけられていますが、実際には、そのような文字のコードの信号が出ている訳ではなく、すべて、数字の'0'から、アルファベットの'F'までのコードで送られています。

```
FF000 => E-CODE
F0000 => P-CODE
F0003 => H-CODE
F0005 => L-CODE
F0006 => A-CODE
F0009 => B-CODE
```

このような構成になっています。
規則性としては、先頭が'F'であること、
E-CODEを除いて、中が'000'であること
のようですが、まだ空きがあります。

そこで、PQSFXでは、勝手に空きのコードに、コードネームをつけてしまいました。

```
F0001 => N-CODE----
F0002 => Y-CODE----
F0004 => r-CODE----
F0007 => T-CODE----
F0008 => G-CODE----
F000A => U-CODE----
F000B => -CODE----
F000C => C-CODE----
F000D => d-CODE----
F000E => F-CODE----
```

↑各自で好きなコード名をつけてください↑

これらの群番号は、あらかじめメモリーにある訳ではなく、そのコードに該当する群番号を打ち込むと、上記のように表示されるものです。

入力例

```
リセット => [ ] + [ F ] + [ 0 ] + [ 0 ] + [ 0 ] + 末尾
```

末尾に該当する部分に、0～Eの文字にあたるキーを押せば、上記に記してあるコードが表示されるはずですが、

特に、Y-CODEなど、どんな通信目的に使用されるかは、推して知るべし。

大いに利用してください。また、他の機種では当然表示されませんので、あまり意地をはらないように、

◎ CHについて

キー操作によるCH設定の場合は、01CH～158CHまで、可能です。

(モニタースキャンの場合は、02CH～158CHまでです。)

ただし、モード 5, 6, 7は、極度に周波数が離れているため、

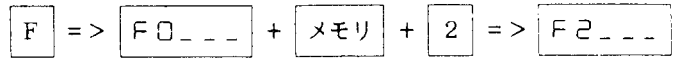
無線機本体の性能により、送信できない場合があります。また、送信していても、安定した電波であるかは不明です。

このため、この周波数帯での送信は、極力行なわないでください。終段パワーモジュールの故障の原因ともなります。

◎ モードの切り替え

モードの切り替えは、F+メモリ に続く数字キーで設定できます。

例 ダブルダウンモードにセットする



◎ 最近の900MHz帯の様子

パーソナル無線も、もう、5年の歴史がありますが、最近になって特に、OFFバンドに対する取り締まりが強化されてきているようです。驚くことは、このP Q S F Xのバンドの状態で、6、7モードあたりで自動車電話が入感してくることです。自動車電話は、もっと下の周波数から割り当てがあるはずですので、このあたりの周波数まで使用していると、相当の加入者数になっているものと思われます。うらをかえせば、それだけお金をかけて電波を使用している局が多くなってきているということです。

また、アップモードにあたる、MCA局の加入数も、相当伸びているようです。

このため、多大の費用をつかって運用している局が多くなるため、特に、パーソナル無線の、OFFバンドに対する取り締まりが厳しくなっています。なにしろ、パーソナルは、彼等にとっては、ただの遊びですから。

あえて、OFFバンドは、送信禁止状態にはしません。いつでも電波は出る。その時になって出ないのでは話にならないとおもいます。ただ、どこで使うかだと思います。

各自十分自覚をもって、この、P Q S F Xを運用してください。

モード0	—— ノーマルモード	————— 903~905MHz	—— ノーマル
1	—— ダウンモード	————— 901~903MHz	} 現在割り当てなし
2	—— Wダウンモード	————— 899~901MHz	
3	—— トリプルダウンモード	————— 897~899MHz	
4	—— フォースプライベートモード	————— 895~897MHz	
5	—— ファイブプライベートモード	————— 893~895MHz	
6	—— シックスプライベートモード	————— 891~893MHz	} 自動車電話がほぼ 使用中
7	—— どん底モード	————— 889~891MHz	

◎ リザーブメモリーについて

○ リザーブメモリーとは、一種の裏メモリーです。SFXでは、1280にも増えたすべてのCHを、十分有効に使用するのには、困難なほどになりました。そこで、リザーブメモリーを活用すれば、ある程度のCH、群番の管理を機械に任せてしまおうというものです。

○ リザーブできる数は、8個までです。9個目を入れますと最初の1個が消されてしまいます。

○ 群番、CH、モードまでをワンタッチで記憶できてしまう便利な機能です。

あらかじめセットしておき、CHからCHへ、瞬時のQSY（CH移動）に、また、多数のグループとの掛け持ちQSOも、らくらくOKです。

○ リザーブメモリーの使い方としては、以下の4とうりがもっとも便利と思われます。

- 1、リセット待機中、呼ばれた群番、CH、モードを記憶して、リセット状態を続ける。
- 2、リセット待機中、群番解読で、次々表示される群番をためておき、希望の群番号のところまで、後戻りさせる。
- 3、モニターサーチから、スペシャルサーチを行ない、待ち受けと同じ群番を見つけたら、その群番、CH、モードを記憶して、スペシャルサーチを続ける。
- 4、自分であらかじめ、リザーブメモリーに記憶しておき、そのCH間を自由に行き来する。

以下に、それぞれの機能の組み合わせ方法を例として記します。

なお、スペシャル機能は、すべてOFFの状態からセットするものとします。
また、群番号の、メモリー及び、待ち受けの設定はされているものとします。

○1、リセット中の留守番機能

自動リザーブ機能を、ON にします。

$\boxed{F} + \boxed{2} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{2_ _ 3_}$

以上をセットしてリセット待機すれば、自動的に呼び出しを受け30秒後にその群番、CH、モードを記憶しリセット状態に戻ります。

○2、リセット中の群番戻し

自動リザーブ機能を、ON にします。

$\boxed{F} + \boxed{2} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{2_ _ 3_}$

全群番号リザーブ機能を、ON にします。

$\boxed{F} + \boxed{2} + \boxed{4} \Rightarrow \boxed{2_ _ 34}$

群番号解読機能を、ON にします。

$\boxed{F} + \boxed{6} \Rightarrow \boxed{F05_ _}$

以上をセットしてリセット待機すれば、次々表示されてくる群番号を、後戻りさせて、そのCHに行くことができます。ただし、9個以上前の信号は戻せません。

$\boxed{F} + \boxed{4} + \boxed{8} \cdot \cdot \cdot \boxed{8}$ のキー操作を行えば、今までにたまった群番号が、表示されます。希望する群番号で、モニタを押します。

○3. スペシャルサーチリザーブ

自動リザーブ機能を、ON にします。

$\boxed{F} + \boxed{2} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{2_23_}$

群番号解読機能を、ON にします。

$\boxed{F} + \boxed{6} \Rightarrow \boxed{F_6_}$

スペシャルサーチを行ないます。

$\boxed{1}$ 2秒間以上押し続ける。

以上をセットすれば、待ち受け群番と、同じ群番のCH，モードを記憶して行きます。
 なお、リセットをかけるまで行ないますので、出かけている間に、仲間のいるCHを調べておけます。

◎ リザーブメモリの仕組み

以下の説明は、リザーブモード中でのことです。

$\boxed{F} + \boxed{4} \Rightarrow \boxed{--\square--}$

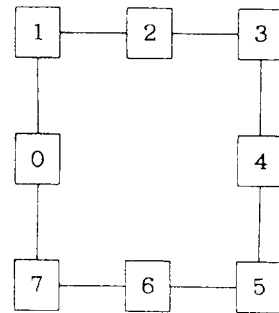
リザーブメモリーには、0～7までのナンバーがついています。

自動リザーブで記憶される場合、リザーブメモリーは、そこにデータが書き込まれると、自動的にナンバーを一つ進め、次のデータに備えます。

$\boxed{8}$ のキーで、取り出せるリザーブを一つ戻します ↑

$\boxed{0}$ から $\boxed{7}$ のキーで直接記憶できます

$\boxed{9}$ のキーで、取り出せるリザーブを一つ進めます ↓



リザーブ関係の操作を行なった場合、 $\boxed{--\square--}$ の表示がされます。

これは、現在、中央に表示されたナンバーのリザーブから出力可能という意味です。

◎ リザーブを呼び出す

$\boxed{F} + \boxed{4} + \boxed{8}$ と $\boxed{9}$ のキーを押すと、 $\boxed{--\square--}$ のような表示が出て、群番号が出ます。

ただし、上の中央の数字は、現在のリザーブのナンバーを表わしていますので、0～7までのどれかです。

$\boxed{8}$ と $\boxed{9}$ のキーで、呼び出したいリザーブNo. または、群番号が表示された時に、 $\boxed{\text{モニタ}}$ を

押します。すると、リザーブされていたCHに移ります。また、PTTを押すと、自動的に

リザーブされていた群番号になっています。

リザーブを呼び出しても、0～9のメモリーは、壊されることはありません。ただし、表示群番は入れ替わります

◎ リザーブに記憶させる

ここでは、自分の希望する群番、CH、モードを、指定したリザーブに記憶します。

- A まず、機械が勝手にリザーブ機能を動作させないように、自動リザーブを止めておきます。

$\boxed{F} + \boxed{2} + \boxed{3} \dots \Rightarrow \boxed{212_}_$ 3と4が消えるようにする

- B 適当な群番号、CH、モードにする。

C リザーブモードにする。 $\boxed{F} + \boxed{4}$ のキーを押す $\Rightarrow \boxed{--\square--}$

- D リザーブさせたいNo. のキーを押す。 \Rightarrow リザーブNo. を表示して、群番号表示に戻る。

以上でリザーブへのメモリーが行なわれました。

以降は、いつでもリザーブさせたNo. にして、モニタのキーを押せば、そのCHに群番号もあわせて移動します。

○ 各状態による、マイクのキーの機能

マイクのセレクト及びモニタの機能は、無線機の状態により、変わります。

セレクトキー

リセット	—————	メモリー呼び出し
固定モニター	—————	-1CHモニター
サーチ一時停止中	———	そのCHを固定
モニター中1秒間押し	—	マイナス方向でサーチ
レディ	—————	連続リコール
HOLD機能中	—————	死んだふり

モニタキー

リセット	—————	モニター
固定モニター	—————	+1CHモニター
サーチ一時停止中	———	そのCHを固定
モニター中1秒間押し	—	プラス方向でサーチ
レディ	—————	スケルチOFF, CH表示

サーチの一時停止中とは、モニタのランプが点滅している状態で、タイマー又はATISの信号を待っていて、つぎのCHに移動する状態のことです。

◎ F の機能一覧表

<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 1	+	<input type="checkbox"/> 1	= ON→PTTロックマイク	OFF→ノーマルマイク
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 1	+	<input type="checkbox"/> 2	= ON→全モードスキャン	OFF→単一モードスキャン
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 1	+	<input type="checkbox"/> 3	= ON→メモリスキャン	OFF→順番CHスキャン
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 1	+	<input type="checkbox"/> 4	= ON→空きCHスキャン	OFF→使用CHスキャン
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 2	+	<input type="checkbox"/> 1	= ON→全モード待ち受け	OFF→単一モード待ち受け
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 2	+	<input type="checkbox"/> 2	= ON→プライオリティ表示	OFF→表示なし
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 2	+	<input type="checkbox"/> 3	= ON→リザーブ機能ON	OFF→リザーブOFF
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 2	+	<input type="checkbox"/> 4	= ON→全群番号リザーブ	OFF→一致した群番だけリザーブ
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 3	+	<input type="checkbox"/> 1	= ON→PTTリコール1分	OFF→PTTリコールなし
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 3	+	<input type="checkbox"/> 3	= ON→多群番リコール	OFF→普通のリコール
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 3	+	<input type="checkbox"/> 4	= ON→タイマーリコール	OFF→普通のリコール
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 4	+	<input type="checkbox"/> 0	から <input type="checkbox"/> 7	= リザーブメモリーセット
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 4	+	<input type="checkbox"/> 8	= リザーブメモリー戻し	
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 4	+	<input type="checkbox"/> 9	= リザーブメモリー送り	
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 5			= ON→ATIS信号カット	OFF→ATIS信号出る
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 6			= ON→群番解読	OFF→群番解読しない
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 7			= ON→表示ランプON	OFF→表示ランプOFF
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 8			= A-CODE 群番号セット	
<input type="checkbox"/> F	+	<input type="checkbox"/> 9			= B-CODE 群番号セット	

- \boxed{F} + $\boxed{\text{モニタ}}$ = 目覚し時計機能
- \boxed{F} + $\boxed{0}$ = 送信出力切り替え
- \boxed{F} + \boxed{F} + $\boxed{0}$ から $\boxed{9}$ = 群番号コピー
- \boxed{F} + \boxed{F} + $\boxed{\text{メモリ}}$ = 免許番号吸い取り
- \boxed{F} + \boxed{F} + $\boxed{\text{メモリリード}}$ = 自局の免許番号表示
- \boxed{F} + \boxed{F} + $\boxed{\text{モニタ}}$ = 相手の免許番号表示
- \boxed{F} + $\boxed{\text{セレクト}}$ = 死んだふり機能
- \boxed{F} + $\boxed{\text{MIC リセット}}$ = HOLDから抜ける
- \boxed{F} + $\boxed{\text{リセット}}$ = HOLDから抜ける

◎ どうすれば？

15局待ち受けをする方法	-----	2ページ
群番を吸い取る方法	-----	3
CHを固定する方法	-----	3
CHを記録する方法	-----	3
自分を知る方法	-----	4
相手を知る方法	-----	4
他人に成りすます方法	その1 免許番号吸い取り -----	4
	その2 免許番号打ち込み -----	4
ひとりだけを待ち受ける方法	-----	4
PTTをロックマイクにする方法	-----	7
8つのモードを全部スキャンする方法	-----	7
新モード158CHでスキャンする方法	-----	9
空いているCHを探す方法	-----	7
8つのモードを全部待ち受けする方法	-----	7
リセット中に通り過ぎた群番を戻す方法	-----	7, 8
個々の群番を探す方法	-----	9
個々の群番を探して貯金する方法	-----	14
自動でリコールを打つ方法	その1 PTT -----	8
	その2 多群番 -----	8
	その3 タイマー -----	8
送信パワーを落とす方法	-----	5
受信感度を落とす方法	-----	9
新モードで呼ぶ方法	その1 小ゾーン -----	9
	その2 1分通話 -----	9
群番号を読み取らせない方法	ATISカット -----	5
群番を解読する方法	-----	5
緊急事態の時	---- E-CODE -----	2
電監の取り締まりに会った時	-----	1